

喜界町



# 議会だより

190号

令和5年2月3日発行



写真:尾根や岬を次々に超えて南下してきた「サンバ」



主	令和4年度 一般会計補正予算	2
な	一般質問に6名が登壇	4
内	専決・補正・条例 結果報告	10
容	議会のうごき	11
	読者の声・編集後記	12



発行/喜界町議会 編集/議会広報委員会  
 〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地  
 TEL:0997(65)1115・FAX兼用

令和4年第4回定例会は、12月6日開会し12月14日まで19日間の会期で開かれた。12月6日は一般質問があり6名が登壇。また承認1件を承認、議案21件を各常任委員会へ付託した。12月14日の最終本会議では、各常任委員長から報告があり、議案21件を原案可決、追加議案2件、発議1件を可決した。

## “ふるさと納税歳入増”

### 令和4年度 補正予算の主なもの

#### ●総務文教常任委員会付託分（委員長 野間 弘也）

担当課	事業名	内容説明	予算額
総務課	一般管理費	道路交通法施行規則の改正によりアルコールチェックが義務化されたため、アルコールチェッカー購入費	270千円
	庁舎管理費	老朽化により使用できなくなったシュレッターと、一階ロビーのテレビ購入費	300千円
	財産管理費	旧坂嶺幼稚園の解体工事分で主にアスベスト撤去に伴う費用	1,000千円
企画課	ふるさと寄附金事業	寄附金の増額によるもの、返礼品代、サイト使用料など	33,509千円
	移住促進事業費	アイランダー2022(全国の島々が一同に会する祭り)への参加費用など	56千円
	観光費	空港高倉のコンクリート爆裂(ひび割れ)修繕工事費用	5,000千円
	コワーキング施設等整備事業費	①ホームページ作成料 ②物価高騰に伴い工事費の増額 (令和5年度早期の完成予定)	21,780千円
町民税務課	廃棄物処理施設整備費	一般廃棄物処理施設最終処分場の工事請負費	129,006千円
教育委員会事務局	スクールバス運行委託料	原油価格高騰の影響により増額	1,320千円
	小学校費	喜界小、早町小、樹木の伐採費用。大きな樹木のため業者へ依頼	400千円
	中学校費	①体育館防球ネットの修繕など ②がじゅまる並木の伐採費用	700千円
	旧学校管理費	旧坂嶺小学校のがじゅまる撤去費用	170千円
	保健体育総務費	①町体育館の舞台照明修繕 ②町体育館の特殊建築物定期調査費 (3年に1回の大規模調査)	3,230千円
	給食施設費	物価、価格高騰による備品購入費(車両購入代)、光熱水費(電気、ガス代等)の増額	2,262千円

## ●産業福祉常任委員会付託分（委員長 生駒 弘）

担当課	事業名	内容説明	予算額
農業振興課	(歳入) 農林水産業県補助金	農業次世代人材投資事業補助金2,250千円減額、 農地中間管理事業機構集積協力金500千円減額、 新規就農者育成総合対策補助金6,050千円増	3,300千円
	(歳入) その他補助金	白ゴマ鑑定の為の日本政策金融公庫支援金	300千円
	糖業振興費	日本プロ農業総合支援機構へブランド化に向けた調 査分析委託金300千円。優良種苗「春のおおぎ原種 苗」供給確保事業委託金560千円	860千円
	園芸振興費	地域園芸活性化事業補助金不足分	7,000千円
	新規就農者育成総合対策費	次世代人材投資事業に代わる新規事業で経営開始資 金2,250千円、新規参入者の経営発展支援金 3,800千円	6,050千円
	農地費	畑かん事業活性化計画委託金2,800千円、堆肥セン ター建設予定地のゴミ処理及び検査費用500千円 等	3,562千円
まちづくり課	(歳入) 地方改善施設整備事業	小野津の道路排水路改修工事不採択のため減額	△20,000千円
	道路維持費	集落からの要望等を受け雑草除去の費用。道路の雑 木は交通量の多い箇所から優先順位で実施	3,000千円
	住宅管理費	湾大筋住宅消火器8本購入分95千円、公営住宅修繕 料500千円、住宅移転費用(2世帯分)280千円等	1,060千円
保健福祉課	(歳入) 国庫負担金	緊急風疹抗体検査事業国庫負担金。昭和37年度から 昭和53年度生まれの男性に対しての抗体検査で、陽 性が出た場合の予防接種を3年間延長する	264千円
	社会福祉総務費	国民健康保険特別会計繰出金638千円、介護保険特 別会計繰出金568千円、後期高齢者医療特別会計繰 出金2,996千円	4,202千円
	高齢者福祉費	「食」の自立支援事業(配食サービス)委託料。件数増 分600千円、物価高騰による材料費、燃料費分240 千円	840千円
	子ども医療費助成事業費	当初予算より増額になったため。子ども医療費助成金。 今年度から18歳までの島外の学校に通う中高校生 を追加し、3千円以上を撤廃している。島外就学者数 は10名を想定	1,300千円
	健康増進事業費	風疹検査接種費用1,280千円、健康増進に関わる過 年度返納金300千円等	1,630千円
	新型コロナウイルス ワクチン対策事業費	過年度返納金(ワクチン接種に係る医師旅費や委託 料等)	2,944千円

# 一般質問

## 町政の ここが聞きたい

第4回定例会で6名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。  
質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する  
よねだ のぶや  
米田 信也 議員

### スズメバチの調査・駆除

#### 質問

先日、大朝戸の集落内にスズメバチの巣が見つかり、生活圏内に蜂の巣が作られているという事実が確認された。巣の中のハチを調べたところ、10月26日時点で創設女王バチ1匹、雄バチ71匹、働きバチが198匹であった。この調査を行った京都産業大学の高橋教授は、「既に巣がほかにも作られている可能性が高い。」今後、危険生物であるスズメバチのさらなる駆除に向けて大朝戸を中心に全島で調査を行う必要がある。町の考えを伺う。

#### 答弁 企画観光課長

10月25日に約3か月ぶりに巣が確認され、駆除及び専門機関への調査依頼を行った。

全島一斉調査となると相当数の人員と費用が必要となり、現在の状況では、実施の必要性や費用対効果等、総合的に判断し、専門家の意見を基に現在実施中の確認情報に基づいた周辺調査を継続的に実施していく。

#### 質問

全島を網羅したトラップ調査は、区長、駆除業者と養蜂業者等の力を借りてスズメバチの駆除、調査を実施する予定があるか伺う。

#### 答弁 企画観光課長

大規模な調査実施では民間への協力依頼も必要となるが、現段階においては、そのような状況でないと考える。大朝戸の周辺に現在トラップを仕掛けており、経過観察を引き続き行っていく。

#### 質問

駆除において、住宅敷地内に関しては住民が費用を負担するとなっており、今後補助や助成を行うことが可能か伺う。

#### 答弁 企画観光課長

住宅敷地内の蜂の巣は所有者にて駆除を行うことが基本となる。他自治体での取組状況等を参考に現在に至る。

今後は、スズメバチの危険性も十分考慮して、補助金や助成金に限らない何らかの支援策を必要性や状況等を考慮しつつ判断する。

### 焼却灰最終処分場の進捗状況

#### 質問

焼却灰最終処分場の進捗状況ですが、助成金の根拠となる循環型の社会推進交付金の地域計画の見直し、一般廃棄物の設置届、開発許

可申請の事前協議の検討が進んでいるか伺う。

#### 答弁 町民税務課長

一般廃棄物の最終処分場について、県への各届出、開発許可申請あるいは設置届等の協議も無事済み、最終段階の事業発注の準備を進めている。今年度中には入札を終え基本的には工事は来年度からになる。

### 公共交通機関の在り方について

#### 質問

現在喜界町では、深夜1時から7時までの間、公共交通機関の営業がなく、港へのアクセスができない状況があり、交通難民と呼ばれる町民、観光客がいることに対しての町の考えを伺う。

#### 答弁 町長

この問題は町民にとっても切実で重要な問題だと認識をしている。昨年度、国、県、各関係機関を構成員とする喜界町地域公共交通会議を設立した。本会議は、道路運送法に基づき自治体が設置し、主体的に地域の実情に応じた交通の在り方を協議する場であり、そこでの合意形成に対しては国も最大限尊重する。

本町の公共交通の様々な問題解決に取り組むため、この協議の検討が始まった。



質問する  
くらはし ひろとし  
倉橋 博都 議員

### 消防団員の退職年齢引き上げを検討

質問

喜界町の消防団は、平成29年4月1日、65歳定年を延長し条例改正、定数は平成25年、団員定数130人とした。定数改正後の団員数は、平成26年度は127名、令和3年度には108名で減少傾向。平均年齢は42.2歳で女性消防団員が7名活躍している。消防団の定年を70歳まで引上げを検討できないか伺う。

答弁 町長

喜界町の消防団員は令和4年11月時点で、定数130名のうち実数が109名。

これは充足率が83.8% 消防団条例の退職年齢60歳、平成29年の4月1日に、この団員の定年による退職は年齢65歳とする。

消防団の車庫等にも団員募集の標語を掲げるなど入団促進を図りつつ、現役消防団員と協議をしながら、体力的な面も考慮した上で、退職年齢の引上げを検討している。

### 液肥供給施設は早急な安全対策を実施

質問

危険防止対策を含め、今後どのように活用していくのか伺う。  
現在廃屋状態にあり、入り口のガラスが割れたり、ドアが壊れたりしていて、非常に危険な状況である。事故等が起きたときの町の責任は逃れられない。志戸桶の液肥供給施設について伺う。

答弁 農業振興課

窓ガラスが割れているが現在立入りできる状態になっている。まずは安全対策、立入禁止等の対策を早急に行っていく。



志戸桶液肥供給施設

質問

当面の対策と今後どのように活用していくのか。  
天井の屋根はなく、壁も壊れて、青空が見えている状況である。この施設も液肥供給施設同様、緊急な対策が求められている。地力増進施設について伺う。

答弁 農業振興課

民間の生産組合で管理委託を行っている。生産組合で、それぞれの北部地区の近辺の集落の畜産農家の牛ふんを集めて堆肥の生産を行っている。  
町でも堆肥センターの建設を計画している。北部地区の仮置場の候補地の一つとして今検討を行っている。



志戸桶地力増進施設

質問

現在、子供たちは水筒を持参して登校している。かばんと一緒に水筒まで学校に持たすとすると、ますます重たくなって体に負担になっていると、保護者の皆さんから御意見が寄せられている。

低学年は大変で、中には、ランドセル症候群や肩や腰の痛みを訴えている子供がいると聞いている。朝から親が水筒に氷を入れて学校に持たせている状況で、親の負担も大きいものと伺っている。各学校に製氷機は設置できないか伺う。

答弁 教育長

町内の各学校においては、年間を通して水筒持参を認めている。水筒の中身については、お茶や水、スポーツドリンクなどであり、夏場の水分補給はもとより、衛生面や個人の事情等を考慮した対応である。また、かばんの重さについては各学校で、学校に置けるものは置くなどの工夫をしていきたい。

飲料水として使用するためには、成分の問題や異物混入の防止対策、大勢で共同使用する場合、誰がどのようにに管理や提供するかとといったような、衛生面などを含めた副次的な課題も懸念される。新型コロナウイルス感染症の影響もあり大人数で何かを共同使用するということについて敬遠する傾向が見られる。

特段の必要性や要望等も見られない状況であり、製氷機の設置について現段階では考えていない。



質問する  
どき かずき  
土岐 和貴 議員

## 「黙食」で子どもたちが失って いくものとは

**質問**  
飲食店の自粛要請が緩和される中、なぜ学校で「黙食」が続けられているのか。

文部科学大臣も、11月8日の記者会見で、必ずしも「黙食」を求めているわけではないと回答している。

① 子どもの社会である学校。勉強だけでなく、他者とのコミュニケーションや遊びも兼ね備えた教育を取り戻す必要があるのではないか。  
② 文部省の衛生管理マニュアルには「黙食」という文言はないがその点はどう認識しているか。

### 答弁 教育長

① 新型コロナウイルス感染症の感染状況、医療体制など様々な状況を勘案し、慎重かつ総合的に検討している。  
② しほらくはこれまでと同様の対策を継続したいと考えている。様々な状況から検討を始めていく段階であることは認識している。

## 子どもたちの尊厳が守られる 教育現場へ

**質問**  
学校教育においてマスク着用を強制的に実施しているのが現状である。その中、マスクの自由化を望む声を頂いている。マスク着用がウイルスの感染拡大防止に効果があるという科学的根拠は存在しないと文部省から回答が出ていることを踏まえ、着用したい子ども、着用したくない子ども、双方の心の声に耳を傾けていただきたい。

① 学校側が子どもたちにマスク着用を推奨しても、それは義務ではなく、強制力が伴わないお願いであると認識している。保護者が子どもの健康被害を防ぐためマスクの着用をいたしませんと言言すれば、否定する権限は学校にも教育委員会にもないのではないか。  
② 同調圧力が無い教育現場であることを望む保護者もいるがその点はどうか。

### 答弁 教育長

① 屋外でのマスク着用については本町でも推奨はしていない。保護者が子どものマスク着用はしめせんと宣言した場合、学校や教育委員会の権限について、マスク着用は強制ではなく、お願いであり、法的な拘束力もない。親権者である保護者がマスク未着用を宣言した場合、そのこと自体に対して学校や教育委員会が拒否する権限はないものと解

釈している。  
② 多様性の尊重と公共性、一見矛盾するような要素のバランスを取りながら、一人一人の児童生徒が尊重され、豊かな集団生活が送れるよう、保護者や地域社会と連携して信頼される学校づくりに努める。

## 小児ワクチンの慎重な対応を 求める

**質問**  
本町でも生後6か月から4歳までの小児ワクチン接種が開始されている。子どもの重症化リスクが非常に低い中、接種の必要性を慎重に検討すべきと提言する専門家の意見も増えている。そして、最近では少しづつではあるが地方メディアでも多くの副反応被害や死亡事例も報道されるようになっていく。

① 今回対象となる接種の予約状況は。  
② 年齢を問わず、今後も慎重な対応が必要ではないか。

### 答弁 保健福祉課長

① 本町における生後6か月から4歳までのワクチン接種対象児は189名。そのうち1回目の予約は4名である。  
② 個人の発症や重症化を予防するだけでなく、社会全体で流行を防ぐことが期待されている。最終的に接種を希望するか、希望しないかは、それぞれの判断である。

## 「南西諸島の安全保障」本町の 対策は

**質問**  
防衛省は、奄美大島、宮古島にミサイル部隊を配備している。本町も南西諸島に属しており、かつ自衛隊通信基地があることから、有事の際は非常に危険な場所になるのではないかと不安の声が上がっている。

① 本町では南西諸島安全保障についてどのように考えているか。  
② 有事の際、避難所（シェルター）等がない本町。有事の際の町民の安全をどのように考えているか。

### 答弁 町長

① 国も近年、離島防衛、国境離島の重要性を掲げ、取り組んでいると認識している。奄美群島を含めた沖縄列島で人が減らないよう、日本人が住んでいられる体制が一番必要であると訴えている。  
② 国は住民用のシェルター整備について検討に入っているが、かなりの期間と費用が見込まれる。町としてどのような役割を果たしていけるか注視して取り組んでいく。



質問する  
のま ひろや  
野間 弘也 議員

## 物価高騰による消費低迷は町内業者へダメージ

**質問** 政府は、価格高騰緊急支援給付金で、家計へ影響が大きい住民税非課税世帯に対し給付金を支給する。影響は課税世帯も同様である。国の支援外の世帯へ町独自の支援を講じる必要がある。見解を伺う。

**答弁** 町長 緊急経済対策については、国民生活に直結する今回のような経済状況においては、国が主体となつて支援すべきではないかと考えている。国の動向、町の状況を見ながら必要があれば町独自の支援策を検討したい。

## 農家所得向上は町に活気を

**質問** 農業者の所得向上を図るため、見直しや視点を変えた新たな取組で所得向上に取り組み必要がある。見解を伺う。

**答弁** 町長 ○今般の物価高騰による肥料や飼料など農業資材の価格上昇に対する負担軽減を図るため、国や県、他の自治体に先駆け町単独事業によつて価格高騰分に対し助成事業を実施した。

○堆肥センター建設を計画しており、島内にある有機資源を活用することで、循環型、環境型農業の推進を図り、資源を外部に依存しない自立可能な農業を目指す取組も進めていく必要があると考えている。

○群島内の一定規模以上の市町村の中では、本町が一番の予算額を確保している。今後はこれまでもは視点を変えた新たな取組や工夫も必要だと感じている。

**答弁** 農業振興課長 中規模農家に対して管理作業を徹底していただくため、作業委託の支援を検討している。

**質問** 経費削減の取組として、農地の集約は大きな効果がある。本町が先進的に進めている適正な農地賃借契約の取組は、農地の集約化に向かうには必須である。適正な農地賃借契約の現状について進捗率、また今後の課題について伺う。

**答弁** 農業振興課長 進捗状況については全体の3割強である。進捗率が上がらない要因

は、相続未登記農地が非常に多い。そのため相続人を特定する探索作業に時間を要していた。現在は、ほぼ探索作業も完了しており、順次利用権設定の手続を進めている。

## 稼ぐ力で継続的な財政運営

**質問** 出産祝金など子育て支援事業には、ふるさと寄附金が充当されている。予算確保のため、ふるさと納税事業を今後どのように展開していくのか伺う。

**答弁** 町長 事業拡充のため、各事業者へ新商品開発や販路開拓の支援を行う予定である。持続可能な事業展開には財源が必要であり、ふるさと寄附金事業は貴重と感じている。

**質問** ふるさと寄附金事業以外にも自ら稼ぐ自治体として取組む必要がある今後の展開について伺う。

**答弁** 町長 入島税や、他の自治体を取り組んでいる公共施設のネーミングライツなどが挙げられる。まずはふるさと寄附金事業をしつかりとやっつけていきたい。

自治体自らが仕掛ける稼ぐ力は必要だと感じている。農家の所得向上は民間や町民が潤い税収が上がる。間接的に循環する仕組みづ

くりも目指していく必要がある。

**質問** 財政運営は定期的な検証、見直しを行うなど、適切な措置を実施する必要がある。子育て支援事業について具体的な目標を伺う。

- ①年間（年度）の出生数の目標
- ②年間（年度）の子育て移住世帯への目標

**答弁** 保健福祉課長 ①生活観やライフスタイルが多様化している中で、出生数を具体的な数値目標とすることは難しく、移住促進も踏まえた15歳未満の人口である年少人口を数値目標としている。

**答弁** 企画観光課長 ②子育て移住世帯に特化した移住定住促進施策は行っており、それに伴い目標も立てていないのが現状である。本町の移住施策、目標数については、5年間で50名という目標数値を定めている。目標達成に向け空き家改修支援事業やお試しハウスの整備、サンゴ留学、コワーキングスペース設置事業等に取り組んでいる。



質問する  
よしおか りいちろう  
良岡 理一郎 議員

### 京都帝大の遺骨持ち去りは先人の尊厳を損なう

**質問** 昭和10年京都帝国大学の研究者が喜界島で99体の遺骨を持ち去っている。集落別には中里1か所3体、赤連1か所9体、坂嶺1か所1体、大朝戸2か所25体、塩道2か所22体、小野津1か所22体、蒲生2か所11体、花良治1か所6体である。墓地から遺骨を持ち出し領得する行為は犯罪であり、研究倫理的にも問題がある。町長の認識を伺う。

**答弁** 町長 この問題は3年ほど前に報道で知り、最近では裁判など注目された案件である。仮に京都帝大が勝手に遺骨を持ち出したのであれば問題であるが、当時の集落の長や祭祀継承者の承諾を得るなど適正な手続きを行っているのであれば行政がかかわるべき問題ではない。

**質問** 喜界島の先人らの尊厳、今の私たちの尊厳を守るためにも、町が

事実関係について京都大学に問い合わせてはどうか。

**答弁** 町長 遺骨の返還に対して町にその権利があるか調べてみたい。喜界町の住民の方の遺骨なので何とかならないのかとの気持ちはわかるので、法的な問題等をしっかりと考えたうえでやっていきたい。

### 新型コロナウイルスは減少傾向 今後は第8波への警戒を

**質問** ①9月以降、直近までの新型コロナウイルス感染確認数。  
②PCR検査の人数。  
③新型コロナウイルス感染症第8波とインフルエンザの同時流行への対策。

**答弁** 保健福祉課長  
①9月は118名、10月は計54名、11月は13名。  
②無料PCR検査は9月から12月4日現在で121名。陽性が確認された方は4名。  
③同時流行への対策は、ワクチン接種の推奨、12歳までの子どもを対象にしたインフルエンザワクチン接種費用の助成、65歳以上を対象とした定期予防接種などを実施している。また、無料PCR検査の継続や宿泊療養施設の開設など体制を整え対応する。

### マイナカード、マイナ保険証 推進は慎重に

**質問** マイナバーカード(マイナカード)の実態・マイナ保険証について伺う。

**答弁** 町民税務課長  
交付件数が2,974件、交付率は44.07%。  
マイナンバーカードのスタートは議員指摘の通り任意が原則。国においては国民の信頼を損なわないように、丁寧に説明して、さらなるセキュリティの強化をお願いしたい。

**答弁** 町長・保健福祉課長  
本町のオンライン資格確認システムの導入状況は診療所は設置済、徳洲会病院は準備中、歯科3医院はまだ設置されていない。

マイナカードを普及するには町民にとつて、どういった利益があるのか、為になるのかということが一番大事だ。国の方に要望したいのは、自分の為になるような紐づけ、個人情報漏えいの心配などないよう、自治体の国民の意見をぜひ聞いてほしい。と常々内部では話している。

### 共同墓(納骨堂)は財源・候補地等を検討中

**質問** 町民の期待は高い。進捗と今後

の予定を伺う。

**答弁** 町長・町民税務課長  
令和4年は宇検村の納骨堂を視察して、検討委員会に報告し、委員会では町営での納骨堂建設が良いのではないかと。場所的には湾・赤連周辺、交通の便が良いところでの意見が出ている。

現在は今後の事業の計画、財源確保の見通し、運営方法、候補地を含め検討中である。

### 野生シカの駆除は焼却処分も進める

**質問** ①今年度4月から直近までの駆除数を伺う。  
②議会で検討を約束した捕獲後の解体処理施設の設置及び、駆除報奨金の増額等の課題の検討は進んでいるか。

**答弁** 農業振興課長  
①12月5日現在の駆除数は25頭である。

②現在、シカ捕獲後の処分法について焼却、もしくは埋設、自己管理による自家消費を行っている。その内、焼却処分については、解体しない処分ができるよう民間事業者と協議している。クリーンセンターでも対応できそうなので、作業は改善される。猟友会の皆さんの理解もいただいたところである。





質問する  
いくしま つねのり  
生島 常範 議員

**防災対策は備え有れば憂い無し  
空振りもOK見逃しはダメ  
「潮位計設置」は必要  
国に要望する**

**質問**

防災対策について。

- ① 津波到着を検知する潮位計設置を国に要望することだったが進捗を伺う。
- ② 発電所の津波対策について。鹿児島県防災アドバイザーからこの問題を含め本町に指摘は有ったか伺う。
- ③ 「自主防災組織表」作成済は何集落か。各家庭で随時確認できるよつになつてゐるか伺う。
- ④ 津波、台風等の非常時や停電時に情報入手のため「FMラジオ」を非常用バッグに入れるよう周知しているが、鮮明に聴こえない地域もあり、避難所で聴こえない所もある。事前に調査して対策できないか伺う。
- ⑤ 防災意識を高め、正しく恐れるため、海抜5m以下の住宅地のゴミステーション等に「海抜表示板」を設置できないか伺う。

**答弁** 町長・総務課長

- ① まだ要望していないが、これは徳之島、沖永良部、与論も必要という共通認識を持って国に要望したい。
- ② 防災アドバイザーからはその件も含め特に指摘は無かつた。
- ③ 区長会で作成を依頼したところ17集落が作成済。印刷して各家庭に配布するかどうかは各自自主防災組織で検討すれば費用面の支援は可能。
- ④ NHKのFMラジオ（80.3メガヘルツ）は島内一周して調査した。山のすそ野は雑音の有るが、聴こえないということはなかつた。避難所となる場所で受信できない所があれば個別に情報を総務課に頂ければ対応したい。停電にならないような対応もしていきたい。
- ⑤ 「海抜表示板」は現在町内一円に98ヶ所設置済みで一定程度カバーできているものと認識している。今は携帯アプリからも簡単に入手出来るし、高齢者に対しては自主防災組織の共助の部分で工夫をしてほしい。



お宅の海抜は？

**伝統文化保存・継承は官民一体  
となつて取り組み**

**質問**

- ① 八月踊りのDVD同様、シマ言葉もDVDに残す必要もあると思う。検討できないか伺う。
- ② 八月踊りの継承について。11月19日の大島地区文化祭で発表した古仁屋集落は小学生から高齢者までの素晴らしい発表だった。議場に在る私達も地域住民として保存会の練習に参加する他、官民挙げて工夫、取り組みをする時期だと思つて見解を伺う。
- ③ 以前の「生涯学習推進大会分科会」のような事例発表、意見交換を通して深く学び合いながらより良い結果を目指すという学びの場を復活できないか伺う。
- ④ 令和5年1月28日、29日に知名町で「危機的状況にある言語・方言サミット」が開催される。2年前の奄美大島大会に職員を派遣したが、その後どう生かされたか。もし、オンライン参加が可能なら役場庁舎内で会場設定して町民に参加呼びかけが出来ないか伺う。
- ⑤ 「防災・行政無線で喜界島の音文化を発信」について検討することだったが進捗を伺う。

**答弁** 教育長・町長

- ① 八月踊りのDVD同様、保存会あるいは研究会、文化財保護審議会、文化協会等の団体が主体的に参画する等の条件が整えば財政面

を始め側面的支援、協力を検討したい。

- ② 瀬戸内町は地域保存会が中心となつて活動し子ども達を巻き込んで継承活動をしている。「行政職員が中心となつて主導的に関わるのは当然あるべき姿だが行政が全てを担うのは難しい。
- ③ 当時の成果、課題を十分に吟味、検討した結果廃止にした。行政の継続性の観点を尊重し再度検証することは考えていない。
- ④ 学校における方言の学習を教育課程にしっかりと位置付けて進めていくことやシマミタ漫画を広報誌に掲載した。オンライン参加については詳細不詳につき回答できないが考えたい。
- ⑤ 町民の中には肯定的な声と同時に音量に対して苦言、改善の意見もある。今後とも検証したい。官民挙げてコミュニティFMを立ち上げてシマ唄等をどんどん流していくという議論をして頂きたい。

琉球（与那国島）のことわざ

ちまはちちたや、  
ちまはちるん。  
ちまはちたや、  
ちまはちるん。

共通語訳：  
島の言葉を忘れると、島を忘れる。  
島を忘れると、親を忘れる。

## ◆ 専決・補正・条例 結果報告 ◆

(議長は採決に含まず)

議案	内容	賛成	反対	採決
承認第12号	令和4年度喜界町一般会計補正予算(第5号)の専決処分について	10	0	承認
議案第41号	令和4年度喜界町一般会計補正予算(第6号)について	10	0	原案可決
議案第42号	令和4年度喜界町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	10	0	原案可決
議案第43号	令和4年度喜界町介護保険特別会計補正予算(第2号)について	10	0	原案可決
議案第44号	令和4年度喜界町後期高齢者医療保険特別会計補正予算(第2号)について	10	0	原案可決
議案第45号	令和4年度喜界町水道事業会計補正予算(第2号)について	10	0	原案可決
議案第46号	喜界町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第47号	喜界町職員の給料に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第48号	技能、労務職員の給料の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第49号	職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第50号	喜界町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第51号	喜界町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第52号	公益法人等への職員の派遣に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第53号	喜界町企業職員の給料の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第54号	喜界町職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第55号	喜界町職員の懲戒の手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第56号	喜界町職員の再任用に関する条例を廃止する条例について	10	0	原案可決
議案第57号	町長等の給料等に関する条例等の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第58号	喜界町職員の給料に関する条例等の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第59号	喜界町消防賞じゆつ金条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第60号	喜界町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第61号	喜界町国民健康保険財政調整基金条例の一部を改正する条例について	10	0	原案可決
議案第62号	令和4年度喜界町一般会計補正予算(第7号)について	10	0	原案可決
議案第63号	学校給食配送トラックの物品売買契約の締結について	10	0	可決
発議第2号	子どもへの新型コロナワクチン接種における慎重な対応を求める意見書(案)	6	4	原案可決

※欠席1名

※議長職は特別多数議決以外の議案については、表決(賛成、反対の意思表示)権はありません。

## ■ 条例説明

議案46号から55号	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員の定年年齢を原則65歳とし令和5年度から2年に1歳ずつ段階的に引き上げる</li> <li>○給料については60歳をこえる職員の給料月額は当分の間60歳前の7割水準に設ける</li> </ul>
議案56号	職員の定年延長に伴い条例を廃止する
議案57号・58号	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人事院勧告に基づき、特別職の期末手当を0.05ヵ月分増額</li> <li>○人事院勧告に基づく国家公務員の取扱に準じて初任給及び若年層の俸給引上げ、勤勉手当を0.1ヵ月分増額するため給料表、勤勉手当率を改める</li> </ul>
議案59号	主に字句の改正で内容、金額の変更はない
議案60号	国民健康保険税の賦課方式を4方式から資産割を廃止した3方式へ改正する
議案61号	<p>現行の国民健康保険税財政調整基金は、保険給付費に限定して運用する規定となっておりますが、制度改正後、保険給付に必要な費用は全額県から交付され不足が生じることがなく、一方、県に納付しなければならない納付金やその他の科目で収入不足になる可能性があることから国民健康保険事業に必要な場合、国民健康保険財政調整基金の処分ができるように規定を改めたもの。</p>

## 議会のうごき (12月～3月)

- 1月11日(水) …………… 議長・副議長研修会 (鹿児島市)
- 1月12日(木) …………… 議員研修会 (鹿児島市)
- 2月21日(火) …………… 各種会議 (奄美市)

**ご案内** 次の議会は、3月上旬を予定しています。

午前9時30分 開会 皆様の傍聴をお待ちしています。

また、喜界町ホームページでは、議会開会中の模様をインターネット中継でご覧いただけます。  
(動画配信サイトで「喜界町議会定例会」を検索していただき、録画もご覧いただくことができます。)

お問合せ 喜界町議会事務局 電話 65-1115

読者の声

故郷の青い海と空

木村 泉 (湾・50代)

縁あって暮らし始めた喜界島で5回目の冬を迎えている。5回目と言っても5年住み続けた訳ではなく転勤で数年間別の島で暮らすこともあった。

初めて喜界島の地を踏んだ2012年3月、南国らしからぬ鉛色の雲と横殴りの雨が歓迎してくれたのを今でも鮮明に覚えている。

喜界島で暮らすようになって感じたことは島民同士の繋がりの強さだった。私が生まれ育った昭和40年代の福岡市のように近所の人は皆顔見知り、道で出会えば挨拶して立ち話、困った時には何かと気遣ってくれる。そんな小さなコミュニティの温もりをいつも感じている。「島には何もないでしょ?」と言われる事が多いけど私はそうは思わない。季節ごとに刻一刻と彩りが変化する青い海、その青い海がそのまま映し出されたような青い空、暑い夏の日でも火照った身体を冷ましてくれる心地良い潮風。日本各地の海を沢山見てきたが、こんなに多様性に富んだ魅力的な海は他にはないと思っている。他にも珊瑚の石垣やガジュマルの木陰、アカシヨウビンのさえずりなど美しい自然で溢れている。この豊かな自然をいつまでも残したままの喜界島であって欲しい。

島の子供たちに島の海の美しさ、素晴らしさをもっと知って欲しいので来春から活動を開始す

ることにした。ULU珈琲のオーナー、種田宗一郎が運営しているサウスビーチクラブで子供たちにサップ (stand up paddle board) やカヤック等のパドルスポーツを通して故郷の海の美しさ、素晴らしさを知ってもらうためだ。同時に母なる海の怖さも知ってもらわなければならぬけど。高校卒業後は島外に出て行く子供たちが多くいる中で、都会生活で揉まれ、ちよびり疲れた時に、故郷の海で遊ぶだことを思い出し、それが子供たちの励みになってくれることを願っている。

個人的には持続可能なエコ生活も実践したいと思っている。太陽光や風力を使った小電力発電と蓄電。雨水や間伐材を利用した水の循環や再生可能エネルギー。間伐材を利用することで山林に入る機会が増えれば山林環境も整っていく。個人で実践しても効果は小さいかも知れないけれど、賛同してくれる仲間が増えれば大きな流れに変わっていくかも知れない。これらの中には行政の援助も必要になってくる。喜界島は小さなコミュニティだけど、その分フットワークの軽さが強みになるだろう。子供たちに故郷の美しい自然や環境を残すために出来ることから始めようと思っている。但し、より一層楽しみながら忘れずに。

編集後記

謹賀新年 あけましておめでとうございます。

コロナ禍4年目の新年、しかも第8波に入ったと言われる年明けになりました。早く、インフルエンザ並みの第5類に分類される日を祈っています。

私事ではありますが、議員になって早いもので2年が経ちました。まだまだ、未熟者ではありますが、この1年も頑張っています。

さて、令和4年もコロナウイルスに振り回された1年で、多くの催し物やイベントが中止や延期を余儀なくされました。令和5年は、4月に開催される予定の喜界島マラソンをはじめ沢山のイベントが開催されることになれば良いと思います。

まだまだ、コロナウイルス感染症の予防対策を取りながら行動しなければなりません。島内の経済も立て直せるよう町議会、行政と共に頑張っていきます。

文責 米田信也



喜界町議会広報委員会

委員長 良岡 理一郎

副委員長 生島 常範

委員 野間 弘也

倉橋 博都

米田 信也

土岐 和貴